

## 裾野麗峰山の会報告書

文・峰田、後藤 写真・浜道、後藤

山行番 NO. 1624  
日時 2015. 01. 10 (土) ~ 11日 (日)  
山域 奥秩父・甲武信岳 (2475m)  
標高差 上り 毛木平約1524m~甲武信岳2475m=約951m  
下り //

参加者 後藤、千葉、浜道、峰田=4名  
タイム 1日目=下土狩7:00-サンメドウズスキー場9:30~12:00-川上村・梓山  
「白木屋旅館」14:30 (泊)  
2日目=旅館発5:30-毛木平発6:07-千曲川源流9:33-1回目甲武信岳10:  
48-2回目甲武信岳11:09-毛木平14:00

### 01月10(土) 無風快晴=後藤

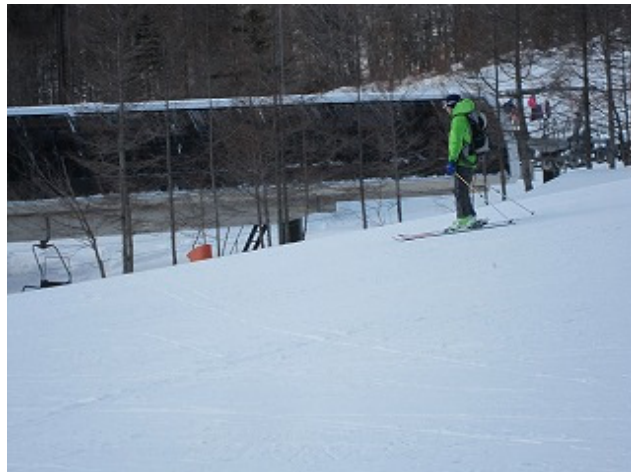
昔は、土日で二つの山に上ったが、最近は「無理」が利かなくなった。土曜日はゲレンデ・スキー、日曜日は登山のメニュー。ただ今日、T君は早出して、富士見パノラマスキー場で終日スキー訓練。ゲレンデ・スキーといえ、一日スキーは体力的・精神的にも負担は大きい。これをこなす根性に驚嘆。

私はゲレンデ・スキーが苦手で、いいところ2~3時間で丁度イイ。従って、下土狩は7:00発。体は楽だ。連休だが混雑なく車は進行。天気は良く南ALPSが素晴らしかった。ただ、上空は風が強いようで甲斐駒はシグレていた。

スキー場で半日券を購入。シニア料金は2800-。Mさんは、非常に久しぶりのスキーで、スクールに入った。Hさんは、今回見学。

このスキー場は中級者向けで、上級者が満足する急斜面がない。従ってファミリーが多い。しかし、ボーダーを受け入れていないのは嬉しい。2時間ほど頑張ったが、今期初スキーで脚はパンパン。疲れて怪我が怖いのでお終い。

Mさんのスクールも2時間で終了。駐車場で昼食をいただき川上村に向かう。宿を確認して、毛木平に明日の偵察に行く。雪は多くないが日陰の氷が怖かった。駐車場は、何故か「毛木



場」となっていた。昔の呼称だろうか？

五郎山の偵察もして、早めだが宿に入りイッパイ。宿は我々のみ。早めに就寝した。

#### 01月11日(日) 快晴・頂上強風＝峰田

毛木平駐車場。千葉さんと合流。6:07 出発。昨夜は、旅館泊りだったので睡眠は十分。朝ごはんもしっかり食べて、体調は良好。気温はマイナス6度

昨日は、マイナス12度と言うので、ゆるやかな寒さかな。駐車場は雪が固まって凍っています。トイレも冬期閉鎖で鍵がかかって使えません。ヘッドランプを付け雪道を歩き始める。すぐに凍った所で転倒。

なだらかな登り。川沿いの林の中分岐を右に30分位歩くと、身体は暖かくなって、体温調整。岩とか雪の少ない所でアイゼンをつける。薄明るくなってヘッドランプを消す。ラッセルされた道だけど時々足が埋まる。何度も小さな沢を渡り、大きなナメ滝。シラビソの林。甲武信岳まで2時間の標識。千曲川まで2.1km上りがきつくなる。少し後れる。千曲川源流。初めて休憩。

ペットボトルがシャリシャリに氷って冷たい。再び歩き出すが、後藤さんの姿が見えなくなる。ワカンを落とす。後ろの人に拾ってもらったので良かったがしっかり付けなければ。浜道さんにダブルストックを借り、前を歩いてもらったがだんだん息が苦しくなっていく行けない。

皆に先に行ってもらって一番後ろをマイペースで登り出したら息も楽になり、富士山が見えるポイントを通り過ぎ 尾根に出て、左へ。まだまだ。再び急登。息を切らして登っていると、皆が下山してきた。

ここまで来てそのまま下山するのは嫌。ザックを置いて登る。みんな また一緒に登ってくれた。頂上は風が強く雪は無い。快晴。絶景。写真を撮りすぐ分岐まで下り昼食。なにも食べられないので、お茶だけ飲んで一人先に下山。

追いつかれないよう 頑張って「甲武信岳2時間」の標識まで雪の下りは早く下れる。そこで抜かれて みんなが体温調整している間に再び追い越す。

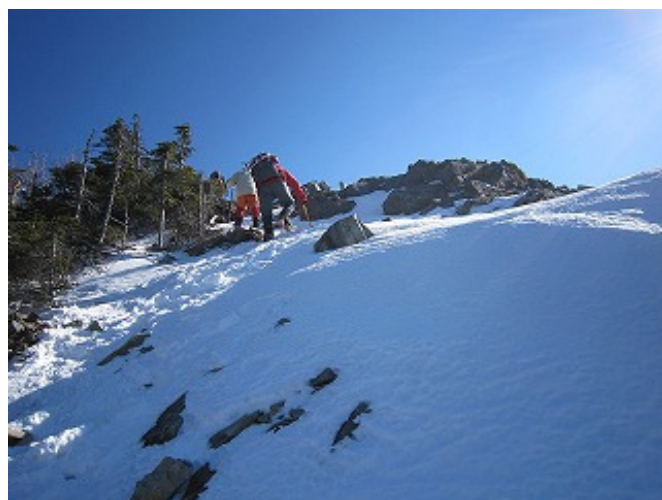
また、抜かされたぐらいから また息が出来なくなり足が前に進まず何度も深呼吸。遅くなって 心配をして 千葉さんが戻ってきてくれて、ザックを背負ってもらおう。戻ってきた後藤さん。待ってくれた浜道さんと合流ができて一緒に下山する事が出来ました。ありがとうございました。



梓山・白木屋旅館



千曲川源流標識



頂上直下

甲武信岳頂上



#### その他の記述＝後藤

1. 白木屋旅館は、7000ー＋暖房費＋税。新館で部屋は綺麗だった。トイレは、ウォシュレットで快適。食事も良かった。朝食は、美味しいアジが出てビックリ。ただ、夕食のご飯は、新米？という割に酷かった。正すと、朝は良くなった。
2. ピアノが風呂場の横にあり、ちょっと残念。
3. T君は前夜車中泊後、毛木平で合流。
4. 毛木平の東屋はスペースがあり、テントを張れる。
5. 千曲川源流標識まで平凡で長い。
6. この日会った登山者は2名。静かな山だった。

以上